

## 岡山県立和気閑谷高等学校学校運営協議会 ー第2回会議 議事録ー

日時：令和2年12月21日（月）13：30～15：00 場所：県立和気閑谷高校管理棟3階会議室

- 1 開会 会長挨拶、校長挨拶
- 2 委員紹介
- 3 協議

## (1) 現状説明と質疑応答

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| ①学校経営計画の中間評価について | ②文科省事業の中間報告について |
| ③進路実績について        | ④生徒募集に係る取組について  |

(質問) 受験志望者数が減少しているのはどういうことか。

(回答) 詳細な分析はできていないが、中学校卒業生数が少ないということがある。また、以前から岡山市中心部の県立に出願し、不合格なら私立へという組み合わせが多いが、今年は、私立専願が多い傾向にある。さらに、私立の通信制も増えている。5人でも10人でも来てもらいたいが、私立の定員そのものが多いことも影響している。今年の中卒者数が大きく500人減る年だが、そのうちの95%は県立の志願者数減少となっている。地元中学校は昨年より志願者数は多いと聞いている。

(質問) 中高連携について、魅力を伝えることはできている。しかし、地域全体に魅力を伝えていくことがもう少し足りないのではないか。地域に対するアピール度についてどのような取組方をしているのか。

(回答) 今年度はコロナの影響で、地域の行事（地域貢献活動・ボランティアなど）が減っている。その中でも、JR和気駅前イルミネーションの企画・作成に関わられた。また、閑谷学ではそれぞれのテーマに沿って地域に出ている。備前焼や民宿のお手伝いなどテーマを決めたところは継続して地域に出ている。あるいは地域の方に継続して本校に来てもらうことで連携している。しかし、もう少し大きな規模（学校全体）の行事ができるとよい。地域へある程度まとまった本校の取組を紹介していきたい。部活動やボランティアなど一部分では交流ができていますが、まだ工夫が必要である。

## (2) 来年度の学校運営計画策定に向けて

備前市・赤磐市・和気町・和気閑谷高校の4つのグループに分かれて以下の3点について協議

- ①学校の取組の中で来年度重点的に力を入れていくべきこと
- ②その取組のためにそれぞれの地域ができること
- ③それを実現するための人事について留意すること

(主な意見)

- ・「広報和気」における高校紹介紙面を毎月1ページに増やすなど、より魅力を発信していくこと。
- ・生徒を出身中学に訪問させて「生の声」を聞かせる場を作るべきである。高校生がダイレクトにアプローチしていくことが大事。
- ・継続的に町民に理解いただける場、中高教員が一緒に話し合う場を設ける。
- ・一人一台タブレットを持って学習していることなどをホームページなどで中学生や保護者に伝えていく。
- ・特出した分野に力を入れて一つのことをする。それに伴って、1分野でも2分野でも特出した生徒を卒業生として送り出す。
- ・PRに関してはこれまで一生懸命やっている。他の高校に比べ、量としてははるかに充実しているし、閑谷学が軸として存在しているため地域との関わりはコンテンツも実績も充実している。ただし進路保障につながった実績のPRが少ないことが生徒募集につながっていないのでは。本日紹介されたRSKのインタビュー番組のようなものがもっと増えればいいと思う。どのような進路保障をしたのか、この実績がどのように積みあがっているのかということを保護者や中学生に何らかの形で伝わるコンテンツが大切である。
- ・「高校魅力化評価システム」は学科に分けた分析が必要である。それがないと改善への戦略が立たないのではないか。
- ・学校経営計画書が担当部署を中心になって書かれている。実績として一番強調したい部分を取り出して示せばいいと考える。閑谷学や研究開発室という項目がいるのではないか。コロナの影響で「B」評価ではなく、「この状況下で取組めなかったことはあるが、ここは力を入れてできたから「A」評価としたい」といった評価の仕方があってもいいのではないか。

- 4 事務連絡
- 5 閉会